

平成28年度 小松市立松陽中学校 学校評価最終報告

小松市立松陽中学校

		自己評価			学校関係者評価		次年度への方向
		評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取組の状況	達成状況	学校関係者による意
①	組織的な学校運営	(組織力の向上) 総務会(校長・教頭・主幹・生徒指導)、主任会やその他運営委員会の組織を活性化し、職員の見学意識を高めるとともに、次の主任層の人材育成をはかる。 【学びの指針10条】	【満足度指標】 学校運営や教育活動の運営に対して、情報が共有され、組織的に運営され、職員が運営に携われていると感じることができる。	組織的な運営がされ、学校への参画意識がある職員が割合が A : 100% B : 90%以上 C : 80%以上 D : 80%未満	学校運営への参画意識を高め効率化を図るため、企画会、主任会、特別委員会などの組織や回数を見直した。	A	・いじめや不登校については、担任や学年だけに任せるとはせず、学年を越えて組織的に対応をしていく体制をさらに強化していく。特に、S・Cや関係機関との連携も行いながら対応する。
		(いじめ・不登校の早期発見・早期対応) いじめに対しては、いじめ対応マニュアルに従って、組織的に誠意を持った迅速な対応、解決を図る。悩みを抱える生徒の早期発見、情報共有、迅速な対応に心がけ、解決を図る。	【満足度指標】 いじめ対応マニュアルにより、事案発生時には誠実迅速に組織的な対応をする。教育相談活動などが計画的に行われ、早期発見に努め、情報の共有を図っている。	いじめへの対応ができていると感じる職員が A : 100% B : 90%以上 C : 80%以上 D : 80%未満	職員アンケートの結果では、7月に引き続き高い割合にある。子どもたちの変化を共有しS・Cや関係機関とも連携し組織的に対応している。	A	・不登校生徒がいるということで、その対応にいろいろな先生方が関わっているという話を聞いています。どのような形でその子たちに複数の先生方が関わっていただきたいと思います。
		(指導力の向上) 校内研修会を計画的に実施するとともに、風通しの良い職員関係を醸成し相互のコミュニケーション力を高め、授業力、生徒指導力など、総合的な指導力の向上にあたる。【学びの指針10条】	【満足度指標】 各自が短期的な目標を持ち、目標達成に向け、組織的に相互に働きかけることにより、成長が実感できる。	担当業務遂行が学校運営に生かされていると感じる職員が A : 90%以上 B : 80%以上 C : 70%以上 D : 70%未満	職員アンケートでは、概ね100%という回答であったが、12月のアンケートでは、生徒指導面で相談の場面が少ないという意見もあった。	B	・校内研修会では、学力の向上だけでなく、市の推進事業の「生徒理解」を受け、特別に支援が必要な生徒や不登校生徒など課題を抱えた生徒への対応なども一層充実させていく。
②	確かな学力の育成	(学力の定着) 表現する力、特に「書く力」を教科、領域を通して向上するために、意図的に授業形態を工夫する。 【学びの指針5条】	【満足度指標】 表現力を向上させるために、授業形態を意図的に工夫している。	力がついたと感じている教職員・生徒が A : 90%以上 B : 80%以上 C : 70%以上 D : 70%未満	「めあて」「まどめ」の掲示だけでなく、2学期より「前時の振り返り」の時間を意識的に取り入れ、学力の定着を図った。	B	・勉強の大切さや将来にいかに関与していくかを意識し、内容が濃いものにし、授業改善を行う。今年度は「書く力」にこだわったが、さらにそのつけない力がどのようなのかその内容にもこだわって授業改善を進める。
		(教科部会の活性化) 学力向上の課題を共有し対策するため、教科部会を計画的に実施し、PDCAを意識した取り組みを実施する。 【学びの指針11条】	【成果指標】 各教科部会が短期的な目標を立て、目標に向け評価および対応を行い、目標に達しているか。	短期的な目標に到達している A : 90% B : 80%以上 C : 70%以上 D : 70%未満	定期的に教科部会を開催し、学力調査や定期テストで行った力の確認などを行った。進捗状況を確認するために学力向上チームを立ち上げた。	A	・本年度2学期から行っている定着率を高めるための授業づくり(開始5分前取り入れ)を推進する。 ・職人からの話を聞き取り、年度当初から計画的に取り組むを行う。
		(家庭学習の充実) 家庭学習の習慣化と定着を目指し、宿題の出し方や点検の方法を学年で組織的にを行い、さらに家庭への協力を求める。 【学びの指針8条・9条】	【努力指標】 家庭学習の習慣化や定着を図るための取組を推進し、保護者にも情報提供する。	家庭学習の充実に向けて取り組んでいると感じる割合が A : 80%以上 B : 70%以上 C : 60%以上 D : 60%未満	週末課題など学習の定着をはかる取組を各学年工夫して行っている。保護者との協力体制が課題でもある。	B	
③	豊かな人間性の育成	(道徳教育の推進) 教科指導や領域において道徳的な価値付けを行い実践し、自己肯定感を高める。	【成果指標】 特別活動を中心とした自己肯定感を高める取組をするため、校内研修会を充実し、実践できたか。	自己肯定感を高める実践が行えた A : 80%以上 B : 70%以上 C : 60%以上 D : 60%未満	・各学年の道徳担当が中心となり、教材の共有や授業を交流することができた。 ・活動的な道徳の授業づくりの研修を深める必要がある。	B	・道徳推進教師を中心に、道徳教育の教科化に向けて「考える道徳」「問題解決型の道徳の授業の実践」に向けて取り組んだ。来年度は、授業交流や模範授業の時間の回数を増やし、内容の充実にも努める。
		(情報モラル教育の推進) 情報教育全体計画に基づいて、生徒、保護者に情報モラルの啓発活動を行う。	【成果指標】 情報教育計画に従い、生徒・保護者に計画的に活動を行い、情報モラルの重要性を啓発する活動を行うことができたか。	情報モラルへの意識が高まったと感じる生徒・保護者が A : 80%以上 B : 70%以上 C : 60%以上 D : 60%未満	・3学期に中学生サミットを受け、生徒自主集会を行うことができた。 ・全体での啓発活動が十分に行えなかった。	B	・情報機器モラル教育については、中学生サミットを受け、生徒会、リーダー会がその使用についての自主的な取組ができるよう働きかける。また、その活動にPTAが連携した取組も同時に進める。
		(読書活動の充実) 朝学習の時間での読書活動を中心に、教科指導での図書館活用を推進する。	【成果指標】 読書活動を推進する取組を意図的に行う。教科と関連させた読書活動で図書館の活用率をあげることができたか。	図書貸出し冊数前年比が A : 100%以上 B : 90%以上 C : 80%以上 D : 80%未満	・朝読書が効果的に行えるよう学級朝礼を図書館で行った。 ・貸出調査の方法が変わったので数値としては比較はできないが、来館者は増えている。	B	
④	健康な身体への育成	(健康教育) 生徒自身が生活習慣や健康の保持増進に関心を持つよう、学校と保護者が協力をして健康な身体への育成に努める。	【満足度指標】 生徒会保健委員会、PTA保健環境委員会を中心に活動を行い、生徒自身が健康教育、食育に関心を持ち健康増進に取り組めるよう指導している。	生活習慣が確立していると感じている保護者・生徒が A : 80%以上 B : 70%以上 C : 60%以上 D : 60%未満	・本年度のテーマ「歯科治療率の向上」に生徒会保健委員会を中心に働きかけ、取組を行い治療率70%を越えた。	A	・部活動に積極的に取り組んでいるだけではなく、朝の挨拶運動など学校の良き雰囲気作りになっている。今後とも学校の美化に取り組んで下さい。
		(部活動の推進) 部活動の活性化と充実を努め、心身の健康や集団意識を高め、規範意識を醸成する。	【満足度指標】 部活動を通して、心身の健康や規範意識の向上が見られる。	部活動を通して生徒の成長を感じる保護者が A : 85%以上 B : 75%以上 C : 65%以上 D : 65%未満	・3年のみならず12年の保護者の95%が部活動への参加に満足している。 ・上位大会への出場率が高まり、学校の校風作りに寄与している。	A	
⑤	家庭・地域との連携	(PTA活動) PTA活動の運営と支援で、保護者との連携を強化しPTA行事への積極的な参加をはかる。	【成果指標】 保護者が積極的に行事に参加する体制、機会を作ることができ参加率を向上させることができたか。	参加協力ができたと感じる保護者が A : 80%以上 B : 70%以上 C : 50%以上 D : 50%未満	・学校からの案内などをこまめに発信することにより、70%の保護者は参加を諦死している。	B	・HPの更新回数や見やすさの改善に取り組む。 ・PTA活動として、生徒会と連携して「情報機器のモラル」について取り組みたいとの要望があり、実現に向けて取り組む。
		(信頼される学校) 情報発信を通し、教育活動や情報を積極的に公開することで、保護者との信頼関係を築く。 【学びの指針12条】	【満足度指標】 各種だよりの発行、HPの定期的な更新、一斉メールを活用し、学校活動や情報公開を積極的に発信する。	学校の情報を得られたと感じる保護者が A : 90%以上 B : 80%以上 C : 70%以上 D : 70%未満	・学年だよりや一斉メール等で学校の様子を積極的に発信することで、取組への評価は高まっている。	B	・HPの更新は頻繁になったが、見やすいものにはできないだろうか。